

## ■第14章

- 1) ダイアトニック・コード(diatonic chord/音階固有和音/音階和音)
- 2) 長調のダイアトニック・トライアド

---

### 1) ダイアトニック・コード(diatonic chord/音階固有和音/音階和音)


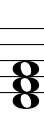
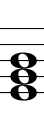


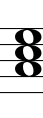
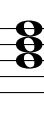
メジャー・スケールやマイナー・スケールを構成しているダイアトニック・ノートによって作られたコードを「ダイアトニック・コード」(diatonic chord/音階固有和音/音階和音)と言います。また実際のコード進行ではダイアトニック・ノート以外のノンダイアトニック・ノートが含まれる事があり、そのコードを「ノンダイアトニック・コード」(non diatonic chord)と言います。

ダイアトニック・コードには、トライアドからなる「ダイアトニック・トライアド」(diatonic triad)や、7thコードからなる「ダイアトニック 7th コード」(diatonic 7th chord)があります。ダイアトニック・ノートやダイアトニック・コードを組み合わせて作られたハーモニーを「ダイアトニック・ハーモニー」(diatonic harmony)と言い、一般的な音楽のハーモニーの基本となっています。

### 2) 長調のダイアトニック・トライアド(diatonic triad)

Cメジャー・スケールの各音をルートとしたダイアトニック・トライアドは、次の通り七つあります。それらをディグリーとコード記号で表わしたものを「ディグリー・ネーム」(digree name)と言います。(※14-1)

example 14-1 : Cメジャー・スケールのダイアトニック・トライアド

	C	Dm	Em	F	G	Am	Bm <sup>(b5)</sup>
							
ディグリー							
ネーム :	I	II m	III m	IV	V	VI m	VII m (b 5)

---

※14-1 「I」「IV」「V」の様にローマ数字のみの場合、コード記号と同様にメジャー・トライアドを表わしています。